

苫東環境コモンズの
活動をまとめて報告

haskap

NEWS LETTER

～コモンズの現地から発信する～

勇払原野のSPIRIT

コモンズの視線

ニュースレター21号をお届けしました。職場である財団のコモンズ研究会では、昨年から遊水地のコモンズに注目し、石狩川の治水対策としての北村遊水地を中心に情報収集を行っています。千歳川の治水も各自自治体に遊水地を設けていますが、北村と基本的には違うのは、千歳川が用地取得、北村は地役権設定であること。つまり、北村のケースは農家の営農は継続し、洪水の際のみ水門を開いて河川水を流入、営農は中断されるもので、基本は土地を重層的に利用するものです。すでに全国的にこの方式は採用されており、研究会はこれをコモンズの視点で見えています。複層の利害関係をもつコモンズの利用が、地域の課題解決にどのように応用されていくのか、興味深いところです。

以下、簡単にその後の7か月の足取りをまとめて報告します。（事務局・草苺健）

NPOの新しいホームページのアドレス <http://hayashi-kokoro.com/commons00.html>

TOPIC 1

育林コンペで経過プレゼン&意見交換



ゆる～く競う「育林コンペ」の中間発表を去る2017年10月28日に開催。各々が受け持った0.5haの育林方針と途中結果について6か所を担当するメンバーがプレゼンしました。各々がユニークな仕上がりになっており、それなりに工夫もされており、これからまた数年の取り組みが期待されます。今季は、厚真の森づくりNPOと札幌ウッディーズが加わり2018年秋はかなりのぎやかな作業風景が展開される予定。また、翌週の11月4日には、雑木林ケアセンターで、チェーンソーのスキルアップ研修を行いました。テーマは「小屋に倒れそうな危険木の伐採」でした。

TOPIC 2

大島山林・遠浅団地で瀧澤先生が健康講話



大島山林の利用促進と、遠浅町内会の高齢者の認知症予防などを目的に、NPOが企画してきた瀧澤先生の

健康講話は、今回で通算3回目。当方が町内会に持ち掛け、町内会と（一社）苫小牧保健センターが共催。NPOとしては探鳥会やキノコ判別会と同様、大島山林の利活用の一環で、恒例になりつつあります。テーマは『健康長寿の秘訣 ～お散歩とお喋りと～』。

地元の約30名が参加されましたので、講話のあとに大島山林のフットパスの散歩の可能性について聞きました。その結果、参加された高齢者の散歩ルートは高度なバリアフリーと地域の見守る目が不可欠であり、適地は露地の山林ではなく、町内の歩道を歩くのが精いっぱいであることがわかりました。

TOPIC 3

コープさっぽろの森づくり交流会でコモンズの保育の考え方など講演



1月27日、コープさっぽろの本店で、草苺が『風土にあわせたコモンズ的な里山管理』をテーマに講演しました。道央圏を中心にした森づくりグループの毎年開催される集まりで、集まった150名ほどの参加者の半分以上が女性。森づくりという概念が、年一回の植樹活動から環境教育活動や森遊びまで含む広範なものになっている結果ですが、当方からは「今、強く求められているのは身の回りの里山の民有地を地域の人がチェーンソーをもって木を伐る手入れであり、そうして快適な森林公園をつくることだ」と提言しました。

この内容は昨年11月20日、苫東の緑地検討会で提言する構想を練っている際に浮かんだ具体的事例を中心に述べたものです。やや個人的な話になりますが、その3週間ほどさかのぼる10月31日には苫小牧市長生大学祭の記念講演を依頼され、『自然が産土（うぶず

な)に代わるまで～原野の不思議と graceful aging～』と題するお話をしたばかりで、このところ勇払原野での体験をもとにしたプレゼンテーションの機会を連続していただきました。基本的部分は「森林は本来みんなのコモンズ的なものではないか」、そして「コモンズ的な森づくりの試み」への誘いです。意味がうまく伝わっていただければ幸いです。

TOPIC 4

ポータブルウィンチを導入



毎年、間伐で出てくる材はどのくらいで、いつまでに終了できるかは、不明のまま不安な日々を送りますが、それというのも工程のほとんどで機械化が進んでいないことによります。林を傷めない人力中心の作業を標榜してきたせいですが、できるところは機械化を図るのは道理にかなっています。

今シーズンは厚真のグループからポータブルのウィンチを借りて集材してみました。集材のスピードは秒速 2, 30cmほどの遅々たるものですが、いつの間にか土場が出来上がり、スノーモービルで集材に回るよりは効率がよさそうです。可能であれば、来シーズンも借りてみたいと話しています。

TOPIC 5

雑木薪で「ハスカップ市民史の本を出そう」

当コモンズでは、雑木林の保育で発生する材をスノーモービルで運び出し玉切りして割って薪にし、会員の薪ストーブ利用者に有償で分譲して、細々と内部留保しています。

一方、平成 25 年ころに着手した昔のハスカップを知る方々へのヒアリングや各種講演と発表の記録など、多種多様な聞き取り原稿が当初予定の規模まで集まり、総括的な記録が全くなかったハスカップと市民の関わりについて取りまとめて出版できる段階になりました。

しかし、ハスカップというマイナーな食べ物はファンが限定的で、内外の協力者をうまくとらえることができません。当NPOでは、この出版経費を、「雑木薪」の内部留保で賄う決断をして動き出しました。雑木林のコモンズから得た収益を、ハスカップというコモンズの記録につき込むという、なんともわかりやすいシナリオが見えます。仕上がり予定はA5判 250p、発刊は年度内を目指します。

29年9月中旬以降の主な活動

*行事末尾の数字は参加者数

- 9/14&15 大島山林の作業テント設営 4
- 9/16 育林コンペ作業 6 & 理事会と懇談会 9
- 9/23 きのご食毒判別会 18
- 9/30 育林コンペ作業 7
- 10/07 育林コンペ作業 3

- 10/08 ベランダ防錆剤塗りと育林 3
- 10/14 ケアハウスの掃除、片付け+時間があれば育林コンペ作業 9
- 10/21 小屋の冬支度(煙突)と育林コンペ作業 9
- 10/28 am10:00 育林コンペ・中間報告会 pm2:00 総会 13
- 11/04 チェンソーのスキルアップ研修 10
- 11/07 瀧澤先生の健康講話 26 & 池の改修打ち合わせ 5
- 11/11 小屋の伐採木の片付け@静川のケアセンター9
- 11/19 テントのストーブや薪など準備 7
- 11/20 苫東の緑地検討会で「苫東方式」を提案
- 11/25 大島山林の保育① 9
- 12/02 大島山林の保育②=札幌ウッドリーズ合同 8+3
- 12/09 山の神参拝と直会 10
- 12/16 大島山林の保育③ ポータブル・ウィンチの実演、研修 10
- 12/23 大島山林の保育④ 8
- 01/06 大島山林の保育⑤ 8
- 01/13 大島山林の保育⑥ 7
- 01/17 " ⑦ 1
- 01/20 大島山林の保育⑧ 7
- 01/21 " ⑨ 2
- 01/27 " ⑩ 7
- 01/28 " ⑪ 1
- 02/03 大島山林の保育 ⑫ いよいよ搬出も開始 6
- 02/10 大島山林の保育 ⑬ 8
- 02/17 大島山林の保育 ⑭ 1
- 02/18 大島山林の保育 ⑮ 4
- 02/24 " ⑯ 10
- 03/03 " ⑰ 9
- 03/10 " ⑱ 材の搬出終了9
- 3/17 大島山林の保育 ⑲ 薪割り開始 9
- 3/24 大島山林の保育 ⑳ 9 18:00~理事会
- 3/31 大島山林の保育 ㉑ 薪割り、シカ害調査準備 10
- 4/7 大島山林の保育㉒薪割りと伐採 6
- 4/14 大島山林の保育 ㉓薪割りと伐採 8
- 4/21 大島山林の保育 ㉔薪割りと伐採 3/17-⑤
- 11+視察 1
- 4/28 大島山林の保育間伐 ㉕ " ⑥ 8

//////////編集後記//////////

■我々の後継者はいるのか、今後どうするのが、たま～に話題になることがあります。若い世代は子育てが一段落するまで、山仕事などには普通は手が回りませんし、やるべきことの優先順位が低いでしょう。だから継続できるのかどうかは成り行き任せです。ただ、森づくりの醍醐味、手応えと、薪を暖房に使うエネルギー利用の喜びは伝えて、人々の動機に訴えたい気がします。マニアックですが確かな手ごたえを感じます。

■交付金に頼らない自伐型林業に動き出す若者が少しずつ増えて、一方で「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」による活動団体は 29 年度 60 団体あまりあります。各々が、地方色をもって里山保全に関わっているようです。詳細を見てみると、従来多かった一過性のイベントタイプより、日常的で、チェンソーを使う仲間も確実に増えています。近く国から新しい森林管理プランが公表され森林環境税が設けられると、事態はもっと森づくりに傾斜します。某官房長官がインパウンドの次は林業だ、と言ったというのが本当だとすれば、なんだか真実味が出てきます。森と林業に直結する時代の流れは変化するのでしょうか。(草苺)

お問い合わせ

NPO 法人 苫東環境コモンズ 事務局

草苺 kt-884-556@nifty.com

携帯 090-6999-2765